

発行日 平成11年8月10日
発行者 江別市生涯学習推進協議会
編集人 広報小委員会(山岸 肇)
連絡先 江別市教育委員会生涯学習担当
(高砂町24・381-1062)

課題は自主財源の活用

本年度から会費徴収を行います

総会終了

去る5月15日(土)、設立以来節目の5年目を迎える江別市生涯学習推進協議会の総会が市民会館で行われました。83の会員団体から選出された30名の代議員のうち27名が出席し、佐古利男議長(大麻スポーツ振興会)の進行により活発な議論が展開されました。まず、10年度事業及び決算報告、業務及び会計監査報告、11年度事業計画及び収支予算について審議を行い、いずれも原案どおり承認を受け、決定いたしました。また今年度は役員の変更時期にあたるため、新三役及び新理事が選出され(左下名簿参照)、当会の益々の発展を誓い新たな執行体制がスタートしました。

なお、会費徴収に関する規約の改正が議決され、総会終了後早速会費を納める団体もありました。この自主財源の有効な活用が、今後の当会の行末を左右する重要な課題であることは間違いないものと思われれます。



あいさつをする安宅会長。引き続き会長職を務められます。

就任のあいさつ



谷川幸雄副会長

このたび、生涯学習推進協議会の副会長にご推挙いただき大変光栄に思うとともに、その責任の重さを痛感しております。

江別市は「生涯学習のまち」「レンガのまち」として知られております。本協議会の組織を見ましても80余の団体の代表で構成されており、生涯学習フェスティバルえべつをはじめ、各種活動が盛んに行われております。

新役員の紹介

協議会の新役員が以下のとおり決定いたしました。よろしく申し上げます。

- 会長 安宅 嘉美(江別市青少年のための市民会議)
副会長 谷川 幸雄(北海道女子大学短期大学部)
理事 岸 信子(江別市文化協会)
輪島 博明(勸江別市スポーツ振興財団)
森 清(江別市自治会連絡協議会)
鈴木 省二(大麻スポーツ振興会)
神矢 容子(おはなしなあに)
吉田 信子(点字ろくの会)
肥田 貞子(江別市社会教育委員の会議)
村上 勇造(江別市公民館運営審議会)
丸山 英夫(江別市文化協会)
佐藤 安生(北陽美術協会)
山岸 肇(江別市市民国際交流協会)
松田 春枝(江別市老人クラブ連合会)
大森 彰(江別市シルバー人材センター)
中井 悦子(江別市消費者協会)
久保 浩美(勸江別青年会議所)
篠崎 謙(江別市食生活改善協議会)
監事 近藤 信雄(江別市社会福祉協議会)
一字 安(江別市赤十字奉仕団)

私の大学でも生涯学習センターを中心に、地域の学習ニーズに応える各種講座を実施しております。また平成12年4月に「生涯学習システム学部」を新設する予定です。これからも開かれた大学として、地域のみならずと共生き共に学び、一層の連携を深め人づくりのまちとして発



決意もあらたに新三役のみなさん。世紀をまたいでの執行部です。

# 日々楽しむ私の生涯学習



逸見 敏夫さん

僅かばかりの敷地に、生り物の木を植えてから三十余年になる。今では桜桃の木も8メートル以上に達し、幹も太いもので直径30センチを越える程に成長し、年々その種類も増え20種類を越すようになった。我が家ではこれを「けん十公園林」と呼んでいる。

朝、二階のアトリエから眺める果樹園は、桜桃が赤い宝石のように煌めき、思わず溜め息が洩れる。最近、朝のテレビ体操が終わると、妻と2人でけん十公園林を一巡する。梅・桃・巴旦杏(はたんきょう)、ソルダム、ブルーベリー等々。そして、けん十と同じ仕種で声には出さずお腹でハフと笑う。

歳月が流れたが、その間、幸運にも多くの優れた方々のご指導を享受することが出来、各種展覧会で十指に余る賞を戴くことができた。中でも「慟哭シリーズ」は40年も描き続けているが、世界各地で事件が尽きない限り、そして私の氣力が衰えない限り、まだまだ続くであろう。体力造りには、畑を耕し、草を刈り、堆肥を運び、さらには消毒や害虫の処理等、結構体を動かし汗をかいている。

## 晴耕雨描

また、世界を見聞するため海外旅行を始めてから久しい。その時に受ける感動と驚きは、描く際にはひらめきとあって生きてくる。今後も機会があったら、未だ見ぬ国を訪ねたいと思っている。

(北陽美術協会顧問)



料理は愛情 ウデは後からついてきます。(蒼樹大学学習風景)

## この地に来て

野幌の地に私が初めて来た昭和34年当時を振り返り、あの頃のまちな風景が懐かしく思い出されます。

当時は、まちの中に数本の煉瓦の煙突がそびえ立ち、煉瓦づくりの家も多く、一歩郊外に出ると農家にはサイロがあり、私はすっかり煉瓦の美しさに魅せられ、この地で煉瓦の仕事に就きました。私の仕事は煉瓦工場に原料となる粘土を運ん



葛西恵美子さん

「おかあさん、インドネシアは今大変。」高校生の時一年間我が家にホームステイし、今は大学生のウビが受話器の向こうで、母国の政情不安を訴えています。

ベルリンの壁崩壊の翌年、壁のかげらをお土産に持って旧東ドイツから来たヤナは、もうママになったとのこと。

だり、出来上がった製品を運搬する運転手でした。そして、仕事を通じて出会った人々は、この地のことが何もわからな



深谷 隆雄さん

私は会社で配車関係の仕事に携わっています。しかし、江別のまちは大きく変貌し、人も増え車の数も増えました。それに伴い、交通事故の数も大幅に増えています。そんな

## ホストマザー

「家族」として受け入れるのが、ホストファミリーをする時の我が家の基本姿勢です。ですから、全く日本語が通じない場合は英語に言い換えようですが、極力日本語を使うようにしています。彼等は「日本を体験すること」を望んでいるのですから。しかし、楽しいことばかりではありません。最初は宗教や習慣の違いに戸惑いもありました。長期の場合には様々な葛藤があり、時には本気で怒ったり叱ったこともありま

状況ですから、私も、運転者ともども、事故を起こさないよう安全運転に十分心がけております。間もなく短い夏も過ぎ去り秋が来て、また寒い冬がやってきます。私は、除排雪作業にも携わっていますので、雪との戦いが始まるわけですから、なにぶん自然が相手ですからうまくいかないこともあります。しかし、日々努力を重ね地域の方々が快適に冬を過ごせるよう戦い続けていこう、そう決意して、今年も冬を迎えるつもりです。みなさんもご協力お願いします。(東光町在住)

した。でも、30年前に1度パスポートを使っただけで、その後海外旅行をしたことがない私が、海の向こうの国々を身近に感じる事ができるのは、私の心の中の彼等がいつも「おかあさん」「エミコ」と呼んでいてくれるからだと思えます。Think globally and act locally (地球規模で考えて自分の町で行動しよう)と身長143センチの自分を励ましなが、ホストマザーを楽しんでいます。(江別市民国際交流協会)

# 江別ユネスコ協会

菅沼英二(会長)

ユネスコ協会は、世界の平和と人類の幸福を促進するユネスコの事業を民間の立場から支援し、ユネスコの精神を広く伝えようとする団体です。ユネスコとは、国際連合教育科学文化機関のことです。したがって、協会の活動も、教育・科学・文化にかかわる問題をテーマにして展開されます。

## 市民の立場で国際協力

一般の市民団体と少し違うところは、全国組織として日本ユネスコ協会連盟があり、世界連盟の本部がパリにあって、互いに連携して活動している点です。また、国内の協会は、「ユネスコに関する法律」や「地方教育行政の組織

及び運営に関する法律」の規律により、市や教育委員会から助言や援助を受けることになっていることも、特色の一つです。当協会は、市内の有識者や

動しています。学習例会は、外国から江別に来られた方々や最近外国から帰国した方々をゲストに迎えて、最新の各国の実情についてお話を聞き、国際理解を深めて、国際協力の活動の指針にしようという目的で開催しています。

協会の目標から、その活動はどうしても堅苦しいものになりがちなので、できるだけやさしいテーマで、理解しやすい内容にするよう努力して



外国人ゲストを囲んで学習例会

います。例会は、会員以外の一般市民や学生諸君が自由に出席できるように開放していますので、皆さんお誘い合わせのうえ、ご参加いただきたいと思ひます。

※問い合わせ先 江別ユネスコ協会事務局 (江別市教育委員会・社会教育課内)

## 大陸は広くかつ多彩

講座「中国文化へのいざない」

市教委は、当協議会々員の「江別日中友好の会」と共催で、5月から6月にかけて、野幌公民館において、生涯学習講座「中国文化へのいざない」(全5回)を開催し、延べ233名の市民が参加しました。講師には、道内で活躍中の中国人を招き、中国の歴史や思想、民謡や食文化等について、特徴のある日本語でお話しいただきました。

その中で、第2回の講師張潤北氏(中国駐札幌総領事館領事)が、漢字の歴史について、「春秋戦国時代以前は、中国各地でそれぞれ異なった漢字を使っていた。しかし、秦の始皇帝が、中央集権国家

を築くため漢字の統一を成し遂げた。この一点に関しては、彼の功績は偉大であったといえるだろう。そして、現代のコンピューター社会において、中国語は500〜600種類も入力方法があり機種毎にそれが異なるため、非常に使いづらい。だから、今第2の始皇帝の出現が待たれているのです。」と力説すると、会場から、「第2の始皇帝は張先生をおいて他にいない。」と声があがり、大いに盛り上がっていました。また、全体を通して、主催者間の協力体制は十分に機能し、円滑な運営が行われていました。



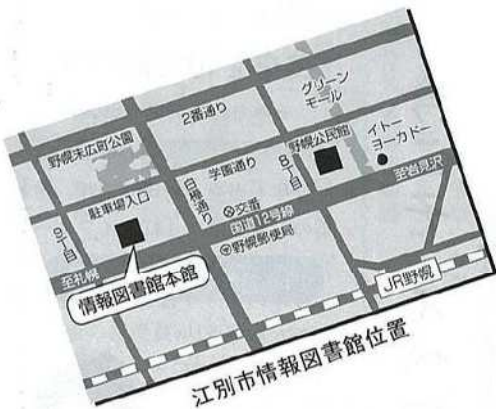
市内学習ポイント⑫

江別情報図書館

江別市情報図書館本館は、市民の皆さまに生涯にわたって様々な学習を行う活動の拠点としてご利用いただくため、平成元年8月に開館しました。

現在、本館のほか、市内3ヶ所の公民館にある図書館分館、豊幌小学校図書室で、図書、雑誌などの閲覧、貸出しのほか、幼児・児童対象のおはなし会を行っています。また、本館では、ビデオ・CDの視聴ができるほか、主に小学生対象の科学教室、一般対象のコンピューター教室、文学講演会、自分史講座などを定期的に行っています。

この他にも、様々な図書館サービスを行っています。お問い合わせは、情報図書館(野幌末広町7番地、電話384-0202)まで。



江別市情報図書館位置



あらためて知った中国の魅力。(円内は張潤北氏)

私の宝物

おだやかな心

私の一番の宝物は形がない。それは「心」だからです。

毎日テレビや新聞にでる事件は、心が荒れ果てている結果で困った事だと思えます。

私は8才から父に手を引かれ寺詣りをしました。朝目覚めるとお日様に向かって感謝し、夕には一日無事に過ごせた事を感謝し、仏前で亡夫と話をする毎日です。

私達は全て命あるものを食物としていただき生きてるので、自然の営みにも感謝を忘れては駄目です。心



明石美代子さん



このにこやかな顔、うれしくなります。

も、前向きに生きてきたおかげだと思えます。45年前、突然我が家になびす様と大黒様がいらっしやいました。小樽から来たという見知らぬ男性が、何かに手引きされてきた先が我が家だというのです。その時も私は、ご縁を思い買ってあげました。それ以来毎朝お詣りをさせていただいております。これも心につながる行為で、大切におまつりをしていきます。

自然に感謝し、ご先祖にも感謝し、物欲を捨てて生活していたら、世の中明るく住みやすくなると思うのですが、いかがでしょうか。(江別5条7丁目在住)

とどけ！私の思い

第4回えべつ老年の主張大会原稿募集

市教委では、今年も江別老人クラブ連合会、聚楽学園、蒼樹大学と実行委員会を組織し、「第4回えべつ老年の主張大会」を開催します。

そこで市民のみなさんから次の要領で原稿を募集します。

◆募集原稿のテーマは「私とえべつ・えべつのここが好き

とどけ！わたしの思い』です。原始林、石狩川、町村農場、その他あなただけの「大好きなところ」もあるでしょう。それについてのあなたの思い入れや、ご意見、提言などを400字詰原稿用紙4枚程度にまとめてください。

◆応募資格は市内在住の満65

才以上(8月末現在)の方。

◆応募方法(原稿

の最後に住所、氏名、生年月日、電話番号、加入団体を明記のうえ、8月31日までに教育委員会生涯学習担当(〒067-0074・高砂町24番

地、☎381-11062)まで



言いたいことは主張すべきです。(昨年入賞の金子桂次郎さん)

当協議会の目玉事業の1つ「生涯学習講座」も、今年で5回目となります。今回はテーマを「ふるさと学・美しいまち好きなまち」として、5回に亘って江別の気候、風土、文化等について学習します。

江別に住んで久しい人も、日の浅い人も、ぜひこの機会

紅ライフトーク'99

食卓を旬で飾ろう

～みちのくの味・母の味～

今年も当会、岩田醸造(株)、市教委の三者共催で「紅ライフトーク'99」開催いたします。

今年のテーマは、『食卓を旬で飾ろう』です。

講師には料理研究家の山口絵里さんをお迎えします。山口さんは、アメリカで漬物を紹介する本を出版される



山口絵里さん

など、日米の食文化交流に尽力されている方です。みなさんも和食の魅力を再発見してみませんか。

【入場無料】

◆日時～8月26日(木)午前10時～正午

◆会場～市民会館大ホール

◆問い合わせ・申込み～市教委生涯学習担当381-11062又は中央・野幌・大麻公民館へ。

今こそ「えべつ」

生涯学習講座のお知らせ

「生涯学習講座」も、今年で5回目となります。

今回はテーマを「ふるさと学・美しいまち好きなまち」として、5回に亘って江別の気候、風土、文化等について学習します。

江別に住んで久しい人も、日の浅い人も、ぜひこの機会

に江別に親しんで下さい。

タイトル及び講師は次のとおりです。(敬称略)

- ①9月22日/サケのふるさと人のふるさと/千歳サケのふるさと館前館長・木村義一 ②9月29日/北には赤煉瓦がよく似合う/北海道女子大学短期大学部・水野信太郎 ③10月6日/森と都市生活/映画作家・藤本幸久 ④10月13日/文化がまちを変えますか/北海学園大学工学部・森啓 ⑤10月27日/雪は嫌いですか好きですか/日本



飛鳥山公園にて(蒼樹大学「ふるさと学」史蹟巡り)

雪水学会前会長・若濱五郎 いずれも午後1時30分からは無料です。申し込みは9月1日から。(定員50名)

◆申込み・問い合わせ～江別市教育委員会生涯学習担当 ☎381-11062

編集後記

「私の宝物」の原稿を受け取りに、明石さん宅に伺いました。89才の高齢ながら、一人で家事を全てこなすというそのパワーに感動しました。また、こちらがお礼をする立場なのに、反対においしいお茶とお菓子をこちそうになり、年期の入った人間の大きさを感し、全くなわないなと思えました。いつまでもお元気でいて欲しいものです。